

千葉県立病院群の 初期研修なら 全部できる！

高度専門医療／プライマリ・ケア
離島・へき地研修／救急医療

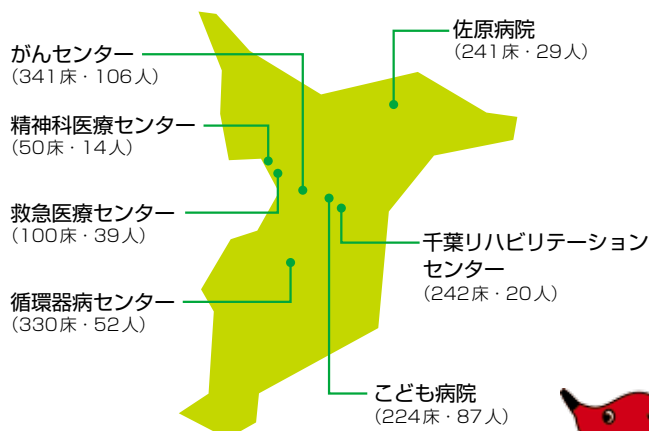
千葉県立病院群では、7つの県立病院と複数の中核病院が結びつき、初期研修医の受け入れを行っている。研修医は複数の病院をローテートしながら、病院や地域ごとの違いを肌で感じ、臨床医として不可欠な柔軟性・コミュニケーション能力を身につけていく。



千葉県立病院群の特徴

- 地域病院から専門病院まで幅広くローテート
- 初期研修から常勤医採用までのキャリアパス
- 一人一人の希望に応える自由度の高いプログラム

各病院紹介 (許可病床数・パート医を除く医師数)



何でもできる！ 千葉県立病院群の初期研修

初期臨床研修医（1年次） 廣瀬祐紀先生（聖マリアンナ医科大学卒業）

「幅広く地域医療を経験」

ひとつの病院に縛られず多くの文化を経験できると思ったため、千葉県立病院群での研修を選びました。これまで、佐原病院、がんセンター、救急医療センターとローテーションしました。地域医療への興味があったため、地域の中核病院である佐原病院での研修を希望しました。佐原病院では科が細かく分かれておらず、専門が異なる先生方が、専門分野を中心しつつもさまざまな領域を「内科」として診察しています。研修を開始して間もなくは戸惑うことだらけでしたが、半年後にはすっかり慣れて、最小限の時間で患者さんから情報を取り、検査を済ませた上で指導医に報告、といったところまで一人でできるようになりました。診察や救急対応の度に自分の成長を実感できたのは嬉しかったです。佐原病院の、特に夜間救急ではさまざまな症例の患者さんが搬送されてくるので、必要となる処置も多岐にわたります。そして、救急医療センターでは、より重篤な症状の患者さんに対する全身管理を学んでいます。将来は神経内科や精神科など、脳神経系を対象とする科で臨床をみつつ、研究にも携われたらと思っています。夏には礼文島での研修を控えています。千葉県立病院群初期臨床研修医としてとして恥ずかしくないよう、一人の医師として地域医療に貢献しつつ、医療に限らず多くのことを吸収して帰ってきたいと思っています。

初期臨床研修医（2年次） 小野敬子先生（東京大学卒業）

「専門性の高い医療を経験」

千葉県立病院群では科ごとに異なる専門病院で研修できるため、さまざまなことを経験できると思い、ここでの研修を決めました。待遇も恵まれており、高価な医学書や勉強会など勉強に必要な費用を惜しまずに出せる環境です。専門病院で研修して特に印象に残ったのは、スタッフの知識の深さです。患者さんの状態をしっかり把握し、きめ細かいケアを提供してくださっていました。医師として自分ももっと勉強しなくてはならないという思いが強まりました。将来は血液専門医になりたいと考えており、千葉県病院群の腫瘍・血液内科で後期研修を行うことにしました。後期研修では、1年目は外病院で内科全般を学び、内科認定医の資格を最短で取得できるようになっています。その後も働きながら大学院で学位を取得したり、海外研修ができたります制度が整っており、とても魅力的に感じています。休日はしっかり取れています。研修中に分からなかったことを土日にゆっくり調べたり、英会話と乗馬のレッスンに毎週通って気持ちをリフレッシュしたりしています。マッチングが迫ってくるかと倍率などが気になってしまうかもしれませんが、それよりも数多くの病院に足を運んでみて、先輩が楽しそうに研修している病院を選ぶのが大事かもしれません。きっと素晴らしい2年間になりますよ。

後期研修医 渡辺 淑先生（東海大学卒業）

「専門医取得に向け勉強中」

医学部に入学する前から小児科医になりたい、将来は生まれ育った千葉県に貢献したいという気持ちがありました。病院見学する中で、国内唯一の試みである専門病院+地域医療病院をローテーションするという千葉県立病院群の研修に興味をもちました。ローテーションの多さについては、医師に必須であるコミュニケーション能力を高められるチャンスが多さと考えました。初期研修修了後、千葉県立病院群を離れて県内の違う病院の小児科で後期研修前半を学びましたが、診断と初期治療の先にある専門的な治療やその経過を学び、一つの疾患の理解をより深めたいと考えるようになり、千葉県立病院群のレジデントに応募しました。千葉県こども病院で学べる症例数は抜群に多く、診療科ごとに数カ月単位でローテーションできる制度や、海外研修制度も魅力的でした。今年は卒後6年目であり、小児科専門医試験を受験する予定です。千葉県立病院群での研修は、専門医試験に向けて症例で困ることはないですし、肺炎や尿路感染症などの一般小児科の症例も結構経験できますので、疾患が偏りすぎることもありません。症例の数と質が最大の利点だと思います。研修の内容は個人によって異なりますが、志望科が決まっている場合は集中的に学ぶ事ができたり、やる気に応じて臨機応変に対応してくれる点はとても心強いです。

常勤医 今村彰宏先生（熊本大学卒業）

「常勤医までしっかりサポート」

千葉県病院群の初期研修で、病院によって地域社会から要求されることがかなり異なることを学べたことは大きかったと思います。現在は千葉県がんセンターの画像診断部で働いています。画像診断専門医を取得して、レジデントから正規の常勤医師になりました。同院画像診断部長の高野英行先生がいるいるな病院・科に読影で頼られており、知識が豊富で学べることが多そうだと感じたので、初期研修でローテートしているときに画像診断専門医になろうと思いました。実際、思い描いていたイメージ通りでした。卒後7年を越えて、指導医の資格を満たしたので、後輩たちにどんどん教えていきたいです。病院間の垣根がないので、初期研修医の時代に指導した教え子が後期レジデントになって画像の相談に来たり、各診療科の情報を提供してくれたり連携がしやすいところが魅力ですね。初期研修のうちから志望科のみに専念したがる人がいますが、数カ月先んじた程度では大して変わりません。むしろ、将来行く可能性が低い診療科を経験した方が、自分の診療科ではみないような患者さんへの適切な初期対応や紹介が可能になるので、多くの科を回れるようなプログラムをおすすめします。



研修管理委員長（病院局長）メッセージ

千葉県病院局では、初期研修、後期研修、その後の県立病院への勤務というキャリアパスをつくり、将来にわたる長期的な人材育成・支援に取り組んでいます。例えば、長期の海外研修や連携大学院での学位取得の制度も用意しています。初期臨床研修のプログラムでは、研修医一人一人が幅広い選択肢の中から自身の希望に合わせて研修先を選べるのが魅力と考え、一番自由度の高いプログラムに一本化します。実際の臨床を経験しながら、自分自身で満足できるプログラムを完成させ、充実した研修をしてほしいと願っています。



千葉県病院局長 小田清一

初期研修プログラム（予定）

●1年目			
内科 (2カ月) がん	外科 (2カ月) がん	内科(4カ月)、外科(1 カ月)、救急(1カ月) 循環/佐原/千葉東/社保 /労災	救急 (2カ月) 救急C
●2年目			
地域 医療 (1 カ月)	選択科(11カ月) ※ただし、麻酔科、小児科、産婦人科、精神 科から1科目1カ月以上を選択すること		

※ 労災病院を選択した場合は内科（救急を含む）の研修を行い、外科はがんセンターの研修期間を3カ月とする
※ 選択科など詳細は千葉県立病院群ホームページ (<http://www.chibakenritsubyouin.jp/>) をご覧ください

平成27年度千葉県立病院群募集要項

〈初期研修医〉

- 募集定員：17名（予定）
- 処遇 給与
1年次：359,000円/月 2年次：416,000円/月
[年収例] 1年次：約560万円（賞与、当直料込み）
2年次：約640万円（賞与、当直料込み）
- 身分等 嘱託（週37時間30分勤務）/宿日直勤務：あり（月4回程度）/通勤手当支給/有給休暇：1年次10日、2年次11日/宿舍：あり（無償貸与）
- 平成27年度生採用試験日程
7月26日（土）、27日（日）、8月16日（土）、17日（日）
※ いずれか1日を選択

- 選考方法：面接試験および筆記試験
（医師臨床研修マッチングシステムに参加）

応募・見学申し込み先

千葉県病院局経営管理課 臨床研修担当：櫻井
〒260-8665 千葉市中央区市場町1番1号
TEL 043-223-3969
FAX 043-225-9330
URL <http://www.chibakenritsubyouin.jp/>
E-mail byoukei3@mz.pref.chiba.lg.jp

